コロナ禍において生活に困難を抱える女性に関する
実態調査結果報告書

令和４年２月

青森県環境生活部青少年・男女共同参画課

１　調査目的

新型コロナウイルス感染拡大の長期化は、女性の雇用や生活の場面で深刻な影響を及ぼしており、孤独や不安を抱える女性の増加が懸念されています。また、在宅時間の増加など、生活形態が変わったことによるストレスなどに起因するＤＶの増加も懸念されています。

この調査は、新型コロナウイルス感染の終息が見えない中、孤独や不安を抱える女性の実態を把握するために実施しました。

２　調査対象

青森県内に在住、または通勤・通学している女性

３　回答者数

１６２人

４　調査方法

青森県電子申請・届出システムを利用したＷＥＢアンケート

（青森県及び青森県男女共同参画センターのホームページへの掲載、ＳＮＳによる周知、市町村・関係団体等への周知依頼　等）

５　調査期間

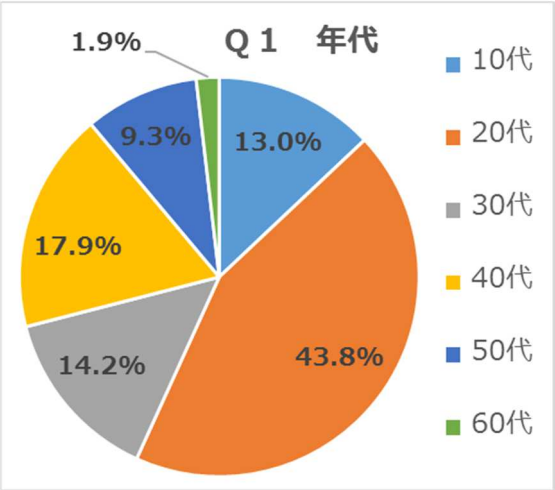
令和３年１０月２７日（水）～１１月３０日（火）

調査結果のまとめ

１　回答者の属性について

Ｑ１　年代

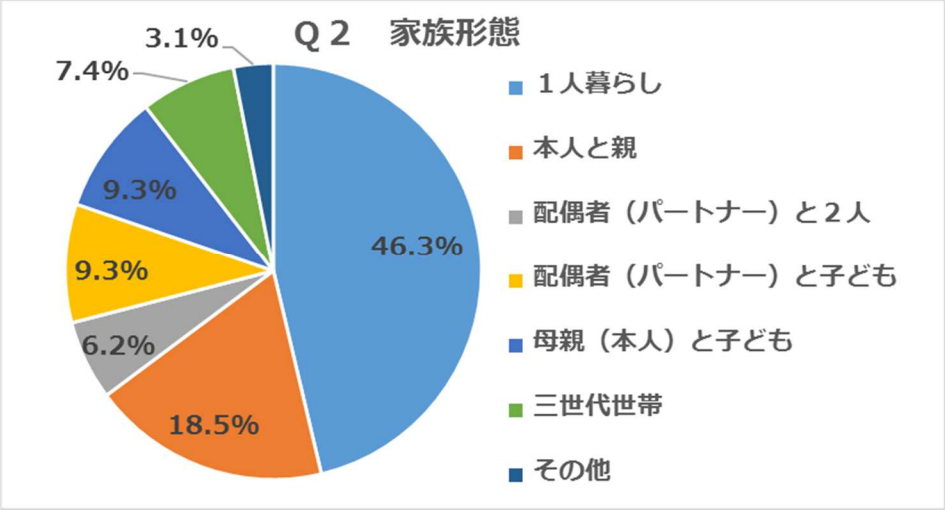
年代は、２０代（４３．８％）が最も多く、次いで４０代（１７．９％）、３０代（１４．２％）が多くなっています。



年代	回答数(人)	構成比
１０代	21	13.0%
２０代	71	43.8%
３０代	23	14.2%
４０代	29	17.9%
５０代	15	9.3%
６０代	3	1.9%
総計	162	100%

Ｑ２　家族形態

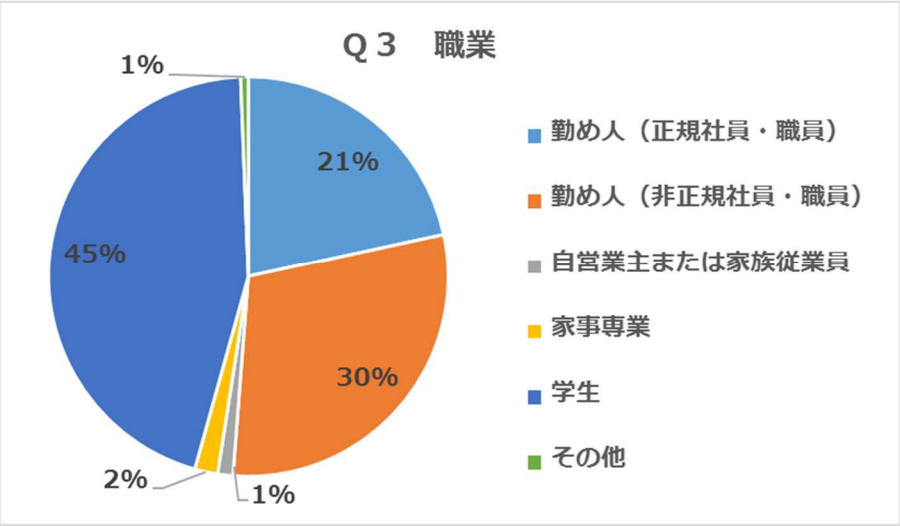
家族形態は、１人暮らし（４６．３％）が最も多く、次いで本人と親（１８．５％）が多くなっています。



家族形態	回答数(人)	構成比
１人暮らし	75	46.3%
本人と親	30	18.5%
配偶者（パートナー）と２人	10	6.2%
配偶者（パートナー）と子ども	15	9.3%
母親（本人）と子ども	15	9.3%
三世代世帯	12	7.4%
その他	5	3.1%
総計	162	100%

Ｑ３　職業（新型コロナウイルスの影響で仕事を辞めた方は、辞める前の職業）

職業は、学生（４５．１％）が最も多く、次いで勤め人（臨時、パート、アルバイト等非正規社員・職員）（２９．６％）、勤め人（正規社員・職員）（２１．６％）が多くなっています。



職業	回答数(人)	構成比
①勤め人（正規社員・職員）	35	21.6%
②勤め人（臨時、パート、アルバイト等非正規社員・職員）	48	29.6%
③自営業主または家族従業員	2	1.2%
④家事専業	3	1.9%
⑤学生	73	45.1%
⑥その他	1	0.6%
総計	162	100%

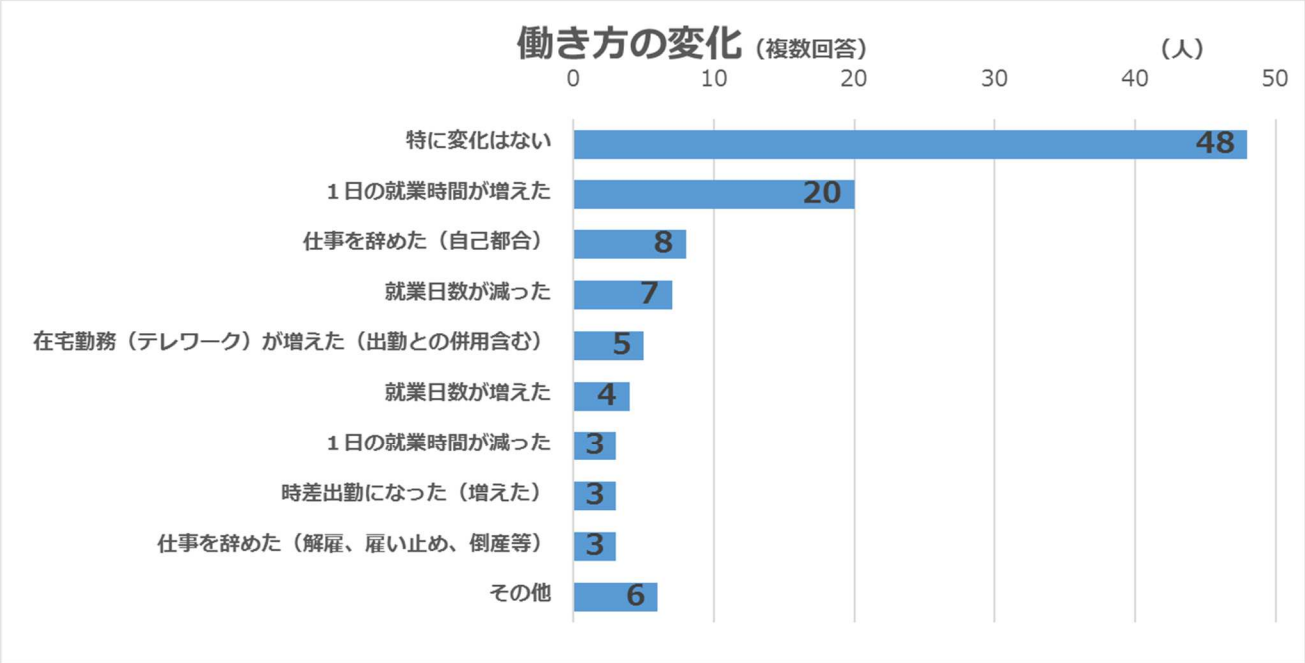
２　働き方の変化

Ｑ４　コロナ禍前と現在とを比較し、新型コロナウイルスの影響によりあなたの働き方に変化はありましたか。【複数回答可】　　＜Q3 で「①、②、③」のいずれかに回答した方のみの設問＞

働き方については、「特に変化はない」が４８人（５６．５％）で、５割強となっています。

働き方が変わった人では、「１日の就業時間が増えた」が２０人（２３．５％）で最も多くなっています。

仕事を辞めた人は、自己都合、解雇等をあわせて１１人（１２．９％）です。



（回答者数　85 人）

働き方の変化（複数回答）	回答数(人)	構成比
特に変化はない	48	56.5%
１日の就業時間が増えた	20	23.5%
仕事を辞めた（自己都合）	8	9.4%
就業日数が減った	7	8.2%
在宅勤務（テレワーク）が増えた（出勤との併用含む）	5	5.9%
就業日数が増えた	4	4.7%
１日の就業時間が減った	3	3.5%
時差出勤になった（増えた）	3	3.5%
仕事を辞めた（解雇、雇い止め、倒産等）	3	3.5%
その他	6	7.1%

〇その他（具体的に）

・十分に休みがとれない。

・家族に風邪症状があると、子どもも子ども園へ行けないし、私も出勤できず。そして欠勤すると嫌な顔される。今度風邪症状が出たら、誤魔化して出勤しようか、本気で悩んでいる。万が一のことがあると、大事になるけど。

・仕事の負担が大幅に増えた。

・コロナとは関係のない理由で転職し就業時間が減った。が、転職を考えるきっかけとしてコロナ対策についてもあったかもしれない。

・辞めて違う職に就いた。

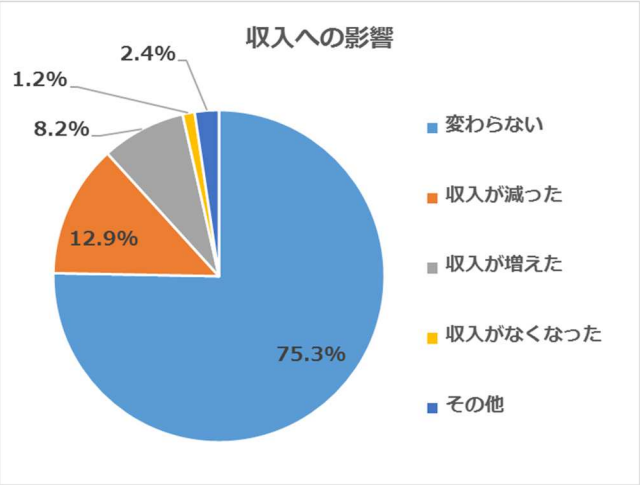
・就活中だったため、就業がまだ不安定である。

３　収入・生活・行動の変化・心身への影響

Ｑ５　コロナ禍前と現在とを比較し、あなたの収入に影響はありましたか。

＜Q3 で「①、②、③」のいずれかに回答した方のみの設問＞

収入への影響については、「変わらない」が６４人（７５．３％）で、最も多くなっており、「収入が減った」は１１人（１２．９％）となっています。



収入への影響	回答数(人)	構成比
変わらない	64	75.3%
収入が減った	11	12.9%
収入が増えた	7	8.2%
収入がなくなった	1	1.2%
その他	2	2.4%
回答数　計	85	100.0%

〇その他（具体的に）

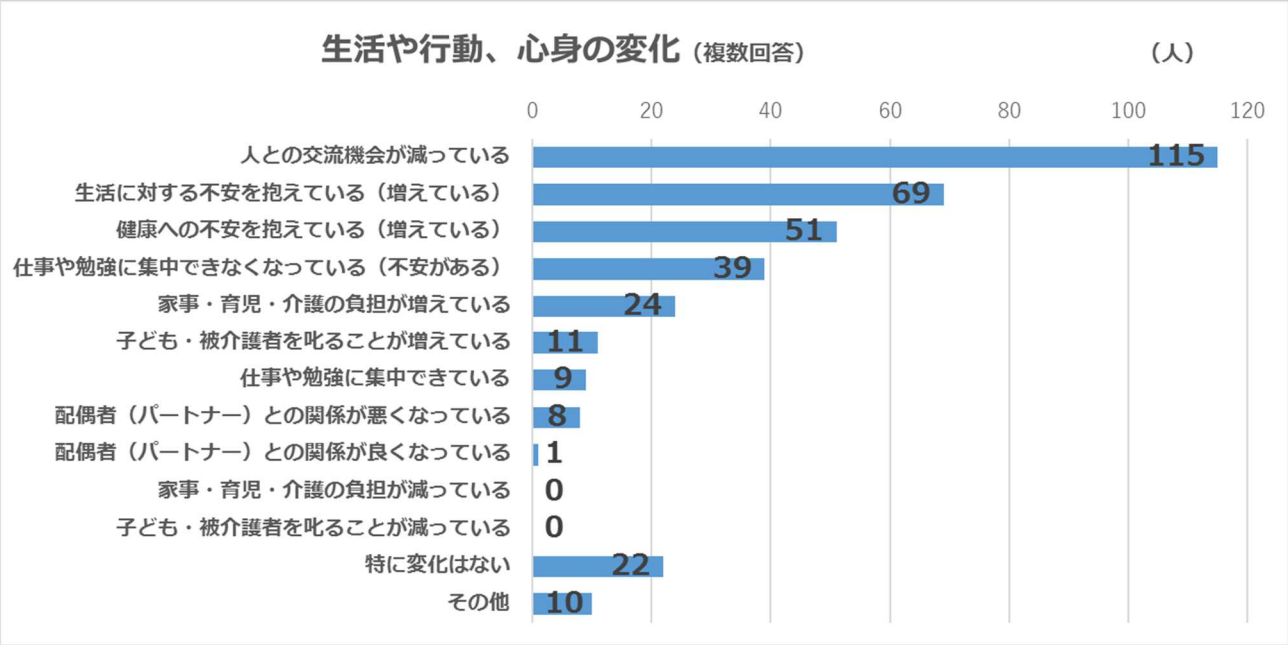
・転職し収入は減ったが、転職理由はコロナ関係ではない。

・減ったので辞めて違う職に就いたので増えた。

Ｑ６　現在、新型コロナウイルスの影響で、コロナ禍前に比べ、あなたの生活や行動、心身に変化はありますか。【複数回答可】

生活や行動、心身の変化では、「人との交流機会が減っている」が１１５人（７１．０％）で最も多く、次いで、「生活に対する不安を抱えている（増えている）」が６９人（４２．６％）、「健康への不安を抱えている（増えている）」が５１人（３１．５％）となっています。

また、「家事・育児・介護の負担が減っている」、「子ども・被介護者を叱ることが減っている」と回答した者はいませんでした。



（回答者数　162 人）

生活や行動、心身の変化（複数回答）	回答数(人)	構成比
人との交流機会が減っている	115	71.0%
生活に対する不安を抱えている（増えている）	69	42.6%
健康への不安を抱えている（増えている）	51	31.5%
仕事や勉強に集中できなくなっている（不安がある）	39	24.1%
家事・育児・介護の負担が増えている	24	14.8%
子ども・被介護者を叱ることが増えている	11	6.8%
仕事や勉強に集中できている	9	5.6%
配偶者（パートナー）との関係が悪くなっている	8	4.9%
配偶者（パートナー）との関係が良くなっている	1	0.6%
家事・育児・介護の負担が減っている	0	0%
子ども・被介護者を叱ることが減っている	0	0%
特に変化はない	22	13.6%
その他	10	6%

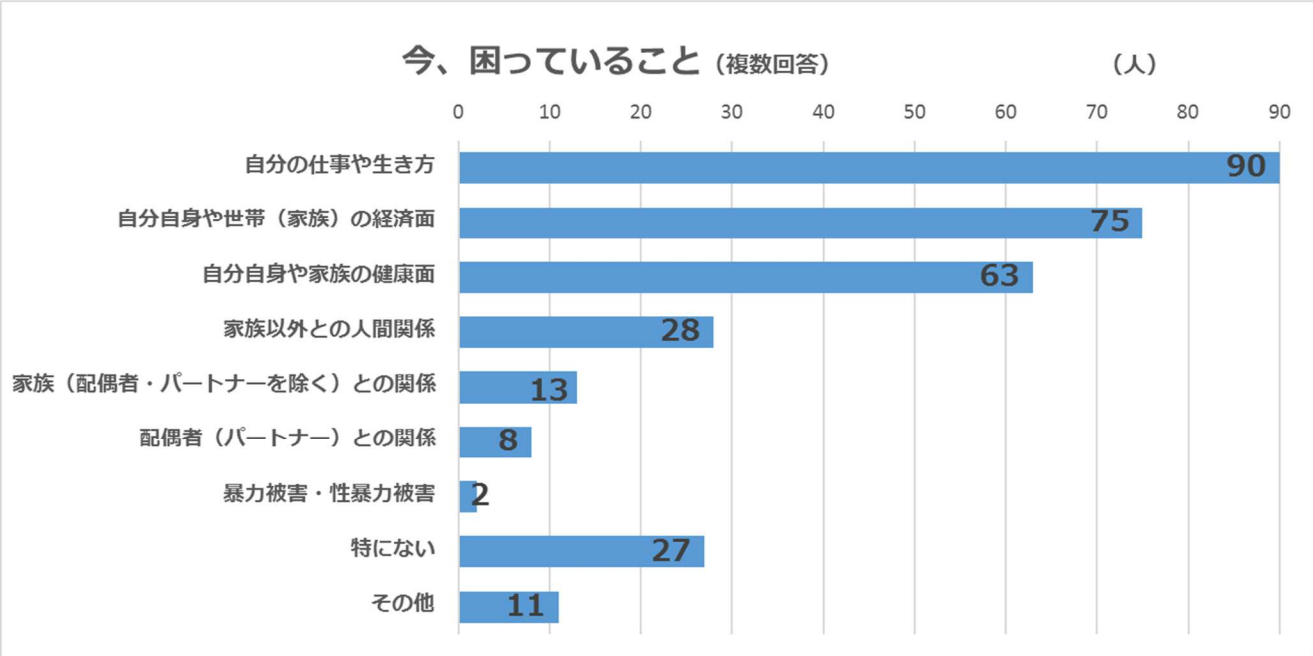
〇その他（具体的に）

・同居の父親との関係が悪くなっている。
・職場での感染拡大が心配。
・就職活動に対する不安。
・職場の飲み会がなくなったことが良かった。
・求人募集の条件が悪くなっていて転職活動がままならない。
・気分が落ち込む。
・前より外出する回数が減った。
・旅行できない。
・旅行などの楽しみがない。
・県外に出ることがなくなり、県内の開拓や交流を楽しむようになった。

４　コロナ禍での困りごと・必要な施策について

Ｑ７　今、あなたが困っていることは何ですか。【複数回答可】

今、困っていることについては、「自分の仕事や生き方」が９０人（５５．６％）で最も多く、次いで「自分自身や世帯（家族）の経済面」が７５人（４６．３％)、「自分自身や家族の健康面」が６３人（３８．９％）となっています。



（回答者数　162 人）

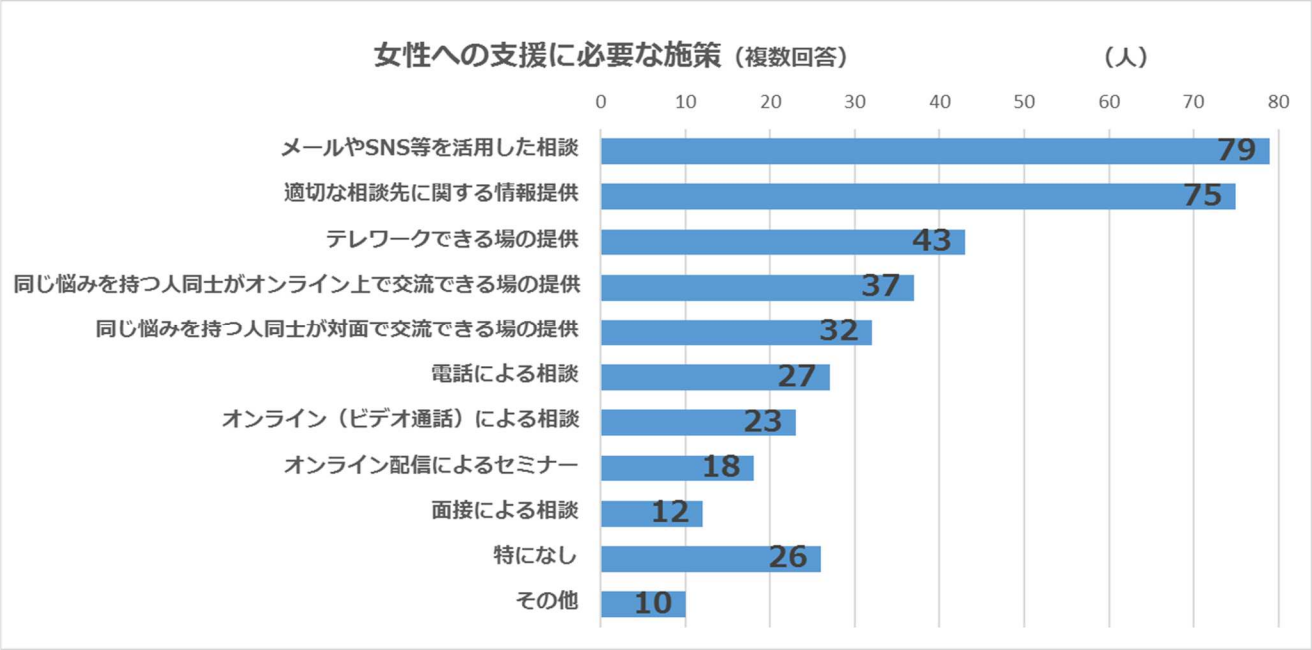
選択肢（複数回答）	回答数(人)	構成比
自分の仕事や生き方	90	55.6%
自分自身や世帯（家族）の経済面	75	46.3%
自分自身や家族の健康面	63	38.9%
家族以外との人間関係	28	17.3%
家族（配偶者・パートナーを除く）との関係	13	8.0%
配偶者（パートナー）との関係	8	4.9%
暴力被害・性暴力被害	2	1.2%
特にない	27	16.7%
その他	11	6.8%

〇その他（具体的に）

・出産後、公的機関でのパートをしているが、雇い止めがあり先行きが不安
・これからについて希望が持てない
・せっかくの学生生活が勉強だけで終わるのではないかという不安
・就職先の選択
・就活に対する不安
・やる気が出ない
・学校の授業の計画の見通しがはっきりとたっていない
・遠出したいと考えていても、もしコロナになって職場に迷惑をかけてしまうと思うと外に出られない。
・旅行に行きたい。
・年齢的に再就職先がなかなか無い。何度も不採用になり精神的に辛い。
・現在不妊治療中で、平時でも精神的に辛いのに、コロナ禍で治療をする不安や、息抜きのための方法に限りがある（外出等できない）ことが重なり、更にストレスになっていると感じる。

Ｑ８　コロナ禍で仕事や生活、家庭等に不安がある女性への支援として、どのような施策が必要だと思いますか。【複数回答可】

女性への支援に必要な施策については、「メールやＳＮＳ等を活用した相談」が７９人（４８．８％）で最も多く、次いで「適切な相談先に関する情報提供」が７５人（４６．３％)、「テレワークできる場の提供」が４３人（２６．５％)、「同じ悩みを持つ人同士がオンライン上で交流できる場の提供」が３７人（２２．８％）となっています。



（回答者数　162 人）

女性への支援に必要な施策（複数回答可）	回答数(人)	構成比
メールや SNS 等を活用した相談	79	48.8%
適切な相談先に関する情報提供	75	46.3%
テレワークできる場の提供	43	26.5%
同じ悩みを持つ人同士がオンライン上で交流できる場の提供	37	22.8%
同じ悩みを持つ人同士が対面で交流できる場の提供	32	19.8%
電話による相談	27	16.7%
オンライン（ビデオ通話）による相談	23	14.2%
オンライン配信によるセミナー	18	11.1%
面接による相談	12	7.4%
特になし	26	16.0%
その他	10	6.2%

〇その他（具体的に）

・障害女性、高齢女性、外国人女性、レズビアン、バイセクシュアル女性、トランス女性なども、安心して対応してもらえる相談。
・期限の定めの無い就職先の提供。
・経済面の支援。
・食料支援。
・アルバイトや契約社員以外の安定した職の紹介、アルバイトやパートに社会保障をきっちりつけるようにして欲しい。
・家事、育児、仕事から離れ、一人になれる時間を作れる環境づくり。
・相談先対応者の優しい気持ち。
・給付金など。今年は収入が変わらなくても次年度どうなるかわからない。手当は前年度の収入で見られるので厳しさはこれからにも影響があると思う。